

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：17501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00608

研究課題名（和文）中国内モンゴル自治区モリンドワ地域におけるダグル語の社会言語学的研究

研究課題名（英文）A sociolinguistic study of the Dagur language in the Moridaba area, Inner Mongolia Autonomous Region of China

研究代表者

包 聯群（BAO, Lianqun）

大分大学・経済学部・教授

研究者番号：40455861

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国内モンゴル自治区モリンドワダグル族自治旗におけるダグル語の調査を実施し、その実態を明らかにした。社会言語学の視点から調査を行い、今まで明らかにされていなかった言語接触、言語変異や言語使用の実態を解明した。また会話データや民話などを収集し、言語の音韻的特徴、文法要素の借用、コード切り替えとコード混合の現象、中国語や満洲語から語彙を借用している特徴などを明らかにした。さらに若年層の言葉に変化があることもわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

モリンドワのダグル語の研究をすることによって、言語接触による言語変異の実態が解明され、東アジア地域における言語接触による言語変異データの不足を補うことができ、理論的枠組の再構築に事例を提供できた。ダグルの若者が自分の言語が危機的にある実態を知ることによって言語の保護や継承に努め、それに誇りをもち、地域共生社会の構築につながると言える。

研究成果の概要（英文）： This research project examined the Daur language in the Morindaba Daur Autonomous Banner of Inner Mongolia, China, in order to better understand its current status. Through a sociolinguistic lens, the study shed light on previously ambiguous aspects of language contact, linguistic diversity, and language usage. It gathered information from conversations and folklore to analyze phonetic patterns, the incorporation of grammatical structures, instances of code-switching and code-mixing, and the adoption of vocabulary from Chinese and Manchu. Additionally, the study observed shifts in language usage among younger Daur speakers.

研究分野：人文学

キーワード：ダグル語 危機言語 言語接触 言語変異 言語シフト 混合言語 コードスイッチング モリンドワ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

危機言語に関する研究は各国で進められているが、研究の大多数は描写的研究に重点が置かれていて、研究の視点が十分とは言えない。ダグル語に関する先行研究は多くあるが、社会言語学の視点を取り入れた研究は限定的で、言語接触や言語変異に関する分析も少ない。研究代表者は黒龍江省チチハル(齊齊哈爾)市の梅里斯区におけるダグル人の言語を言語接触の視点から研究分析をし、言語特徴や言語使用の実態をある程度まで明らかにした(包 2015, 2019a,b)。しかし、ダグル人が集中的に居住する地域となる内モンゴル自治区モリンドワ(莫力達瓦)ダグル族自治旗には3万以上のダグル人が居住するが、自治旗総人口(32万以上)の9%しか占めていない。モノリンガル話者が少なくなり、若年層では流暢な話者がさらに減少している。モリンドワのダグル語はブタハ(布特哈)方言に属し、当方言の使用人口は相対的に多く、広範囲にわたって分布しているが、言語接触による言語変異の実態がまだ明確にされていなかったため、調査研究が求められていた。

2. 研究の目的

本研究は、中国内モンゴル自治区モリンドワ(莫力達瓦)ダグル(達斡爾)族自治旗におけるダグル語(達斡爾)の調査を実施し、その実態を解明する。調査を行う際、社会言語学の視点を取り入れ、今まで明らかにされていなかった言語接触、言語変異のプロセスやメカニズム及び異なる年齢層の言語使用実態の解明、また会話データの収集や民話集の作成などを目指し、言語特徴を明らかにする。さらに Bakker and Muysken (1994)などが提唱する混合言語(Mixed Language)の理論が当地域のダグル語に適用できるか否かを検証し、言語接触による言語変異の理論的枠組の構築に事例の提供を目指す。

3. 研究の方法

まず、中国内モンゴルモリンドワダグル族自治旗におけるダグル語を対象にし、フィールド調査にて、ダグル語の録音、録画及びインタビュー調査をし、言語実態及び言語使用、言語景観などを観察し、言語継承に関するメタ情報などの収集や分析などを行う方法を取った。

また、先行研究や調査データに基づき、言語接触の視点による考察を行い、言語接触による言語変異状況について分析し、言語接触に関する理論的枠組の検証を行った。

コロナ禍のため、自ら現場に出向かい、調査を行う機会が減ったものの、オンライン調査や、協力者に詳細な調査指示を出し、録音録画等を取ってもらい、分析を行った。

4. 研究成果

本研究は、中国内モンゴルモリンドワダグル族自治旗におけるダグル語を対象にし、フィールド調査を通じて、モリンドワ自治旗のダグル語に関する録音、録画及びインタビュー調査を行い、モリンドワダグル語の実態をある程度まで明らかにすることができた。さらに若年層の言語使用の実態、言語景観などを観察し、その実態を解明できた。また語彙の借用は名詞に限らず、文法要素や形容詞、副詞、動詞までの借用も確認できた。さらにバイリンガル動詞(Muysken 2000)が形成されている実態も見えてきた。こうして、コードスイッチング現象やコード混合もあり、バイリンガル動詞もあり、言語接触による言語変異現象が発生していることを確認できた。

2019年9月に中国内モンゴルモリンドワダグル族自治旗に出向いて、現場にて一週間程度の調査を行った。その際、モリンドワダグル族自治旗所在地ニ爾基鎮と村に居住する高齢者を対象に、ダグル語の語彙・物語などに関するデータの録音・録画を行い、無文字言語(包 2023)を持つダグル人の言語生活などについても留意し、関連情報を収集し分析できた。言語生活と関連が

ある言語景観や周辺のメタ情報についても調査し解析を行った。研究結果の一部を、2019年11月末に中国南京大学で行われた「第四回国家言語戦略高級フォーラム」にて、「言語政策と言語経済—言語景観（モリンドワダグル族自治旗）を事例として」をテーマに招待講演を行い、当地域の言語使用実態を発信した（包 2021）。

その後、コロナ禍になり、予定されていた現地調査は実現できなかったものの、オンライン（WeChat）などの手段を駆使し、現地関係者や話者に連絡を取り、詳細な調査項目を作成し、地元の協力者に依頼をし、代替調査をしてもらった。また、2020年から2022年までに第8-11回日中（英）国際ワークショップをハイブリットにて開催し、研究成果を発信した。

(1) 言語の特徴

①音韻的特徴（一部）

中国語借用語語尾の子音[z]が[s]子音に変わることがある(pians < 中国語: 片子 piānzi)が、当単語は早期に取り入れた中国語借用語の音韻ルールの変化に類似する。中国語の有声歯茎摩擦音のzがダグル語に借用された後、一般的に無声歯茎摩擦音のs子音に変わることがある(pəns < 中国語: 盆子 pénsi)。また、中国語に特有のそり舌音 [dz], [tʂ], [ʂ] ([ʂ], 是), [z] などがモリンドワダグル語のブタハ方言に現れていることが確認できた（包 2022）。

②文法要素の借用

モリンドワダグル語（ブタハ方言）は中国語との接触によって、[dʒiuʂ]「就是」（即ち）、[je]「也」（も）、[xaʃ]「还是」（また）、[ʂ]「是」（は…です）などの文法要素が取り入れられていることがわかった。

③中国語の助詞「的 de」(-di-)の借用

モリンドワダグル語のブタハ方言もチチハル方言と同様に中国語との接触度合いがかなり進んでいることが調査によって明らかになった。例えば、中国語の助詞「的 de」を、[xəməi-di:]（普通の）単語の接辞として取り入れている。中国語の助詞「的 de」(-di-)の借用現象が、チチハル方言でも確認されている（[namən ɡənqian-di:] あの門そばの）。

④コード切り替えと混合現象など

調査では、若者の会話において、ダグル語と中国語のコード切り替え、混合使用及びバイリンガル動詞などの言語接触によって発生する現象があることが確認された。また、年齢層、地域によって日常言語にも差があることがわかった。遊牧地域で居住し、また高齢者話者の場合、中国語の借用が比較的少ない。こうして地域や年齢層によって言語接触の度合いが異なる場合があると言える。言語接触が発生する際、コード切り替えの原因の一つとして、言語構造上の内的要因と言語の社会的・心理的な外的要因によるものである。調査者は「自然な環境下」で取得した若者層の会話データによって、コード切り替え現象とコード混合の現象を確認できた（包 2022）。20代の若者間における会話データでは、ダグル語をベースにし、中国語の名詞（フレーズ）、副詞（「差不多」凡そ）や文法要素（「好像」まるで…ようだ、）動詞などを多く取り入れたダグル語と中国語の「混合（Mixed）」フレーズを構成していることがわかった。こういう点において、ドルブットモンゴル人コミュニティ言語に類似する（包 2011）ところがある。

ダグル語と中国語の言語接触によるコード切り替え現象がある一方、ダグル語と中国語によるバイリンガル動詞も構成していることが確認できる。会話文において、A氏の【kau(考)-lu-bəi】（受験した）、B氏の【bau(报)-l-a:d】（申し込んで）、【bau(报)-la-sən】（申し込んだ）とC氏の【dzəŋ(挣)-lu-dʒe:】（稼いだ）、【da(搭)-lu】（付け加える）、【bau(报)lu-l-ʃia:】（申し込んだ）などのバイリンガル動詞がみられる。

以上の会話データは、モリンダワダグル語のブタハ方言において、少なくとも若者の言語使用がダグル語のみではなくなっていることをもの語っている。また、モリンダワダグル語のブタハ方言においては、言語接触と言語変異が相当進んでいて、混合現象にとどまらず、Thomason 等(1988)、Thomason(2001)で言及している言語接触の度合いとも密接な関係があると言える。

⑤語彙の借用

調査では、中国語借用語が多くあることを確認できた。基本語彙の「祖父母」の呼称、日常生活をはじめ、現代社会の技術進歩に伴う新商品の名称、社会、政治、経済などの多分野にわたる語彙が借用されていることが明らかになった。

中国語からの借用語のほか、満洲語借用語やその他言語からの借用語もあることが確認された。満洲語やその他言語からの借用語に関して、先行研究ではすでに多く言及されている。ここでは極簡単に触れることにとどめる。例えば、満洲語の借用語あるいは同起源の語彙には *ilga* (花)、*tubeg* (果物)、*ennur* (神) などがみられる。

(2) まとめ

無文字言語 (包 2023) のダグル語の語彙、文法と物語などのデータを収集でき、言語使用状況、言語接触による言語変異の実態をある程度まで把握し解明できた。モリンダワダグル語のブタハ方言は言語接触による言語変異の現象が起きていることが確認できた。借用は単なる語彙借用のレベルにとどまらず、副詞、文法要素などの借用もあり、バイリンガル動詞を新たに構成していることがわかった。モリンダワのダグル語は中国語の影響を圧倒的に受け、言語接触による言語変異の現象が発生していることが明らかになった。また、言語接触によって発生した言語変異に関する理論的枠組の構築に事例を提供することができると言える。

<引用文献>

- 包聯群 2011 『言語接触と言語変異—中国黒龍江省ドルブットモンゴル族コミュニティー言語を事例として—』。東京：現代図書。
- 包聯群 2015 「中国黒龍江省チチハル市におけるダグル語の実態」、『大分大学 経済論集』(第67巻 第1・2・3合併号)、85-116頁。大分大学経済学会。
- 包聯群 2019 a 「言語接触の視点からみるチチハル市梅リスダグル語の特徴—物語「結婚と生活の礼節」を事例として—」、包聯群編著、『現代中国における言語政策と言語継承』(Language Policy and Language Inheritance in Modern China) (第4巻)、95-110頁。東京：三元社。
- 包聯群 2019b 「言語使用と言語意識—中国黒龍江省チチハル市ダグル人を事例として—」、『現代中国における言語政策と言語継承』(第4巻)、111-127頁。東京：三元社。
- 包聯群 2021 「モリンダワダグル地域の言語景観」、『現代中国における言語政策と言語継承』(第5巻)、153-172頁。東京：三元社。
- 包聯群 2022 「言語接触の視点からみるモリンダワ地域のダグル語の特徴」、『現代中国における言語政策と言語継承』(第6巻)、144-166頁。東京：三元社。
- 包聯群 2023 「言語継承における言語(音声)景観の役割—少数言語特に無文字危機言語を事例として—」、包聯群編著、『現代中国における言語政策と言語継承』(Language Policy and Language Inheritance in Modern China) (第7巻)、79-10頁。東京：三元社。
- Bakker, Peter and Pieter Muysken 1994. Mixed languages and language intertwining. In *Pidgins and Creoles —An Introduction*, Arends, Muysken and Norval Smith (eds.), 41-52. Ams

terdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

Muysken, Pieter. 2000. Bilingual verbs. In *Bilingualism Speech—A Typology of Code-Mixing*, Muysken (ed.), 184-220.

Thomason, Sarah Grey. 2001. *Language Contact — An introduction*, Washington, D.C.: Georgetown University Press.

Thomason, Sarah Grey and Kaufman, Terrence. 1988. *Language contact, creolization, and genetic linguistics*, Berkeley and Los Angeles: University of California Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 包聯群、井上史雄	4. 巻 7
2. 論文標題 言語継承における言語景観と五官 コミュニケーションにおける視覚情報の優位性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代中国における言語政策と言語継承』（三元社）	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 7
2. 論文標題 言語継承における言語（音声）景観の役割 少数言語特に無文字危機言語を事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代中国における言語政策と言語継承』（三元社）	6. 最初と最後の頁 79-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 6
2. 論文標題 中国における言語政策の近年の動向について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代中国における言語政策と言語継承』（三元社）	6. 最初と最後の頁 92-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 6
2. 論文標題 言語接触の視点からみるモリンダワ地域のダグル語の特徴	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代中国における言語政策と言語継承』（三元社）	6. 最初と最後の頁 144-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 5
2. 論文標題 モリンドワダグル地域の言語景観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現代中国における言語政策と言語継承』（三元社）	6. 最初と最後の頁 153-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群、落合守和	4. 巻 5
2. 論文標題 言語景観とは何か 中国のモンゴル系地域とモンゴル国との比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現代中国における言語政策と言語継承』（三元社）	6. 最初と最後の頁 109-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群	4. 巻 2
2. 論文標題 新型コロナウイルス流行期における日本の災害言語サービス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中国語言戦略』	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 包聯群、井上史雄	4. 巻 75
2. 論文標題 中国の方言景観と方言みやげ 歴史・地理・経済	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『大分大学 経済論集』（5,6合併号）	6. 最初と最後の頁 121-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 徐大明、包聯群
2. 発表標題 電話番号の区分表示における制度的規範と共同体規範—日中言語景觀の比較研究(Institutional norms and community norms in the display of telephone numbers: A comparative study of linguistic landscape in China and Japan)
3. 学会等名 国際都市言語学会 第19回年次大会、中国東南大学外国語学院/南京大学中国言語戦略研究センター/国際都市言語学会によるハイブリッド共催（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 少数言語の次世代への継承に言語景觀が果たす役割—無文字（言語声觀）危機言語も視野に—
3. 学会等名 「第十一回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 言語継承における言語景觀の役割(The 11th Japan-China Workshop)」、科学研究費補助金・基盤研究(B、C)による主催(ハイブリッド)（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 中国における言語政策の動向
3. 学会等名 「第十回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 多言語の視点から」(The 10th Japan-China Workshop)、科学研究費補助金・基盤研究(B、C)による主催(ハイブリッド)（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 満洲語とダグル語の言語接触事例
3. 学会等名 「第十回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 多言語の視点から」(The 10th Japan-China Workshop)、科学研究費補助金・基盤研究(B、C)による主催(ハイブリッド)（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 中国内モンゴル自治区モリンドワダグル自治旗におけるダグル語の調査報告
3. 学会等名 「第八回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 少数言語を中心に」(The 8th Japan-China Workshop)、科学 研究費補助金・基盤研究(B、C)による主催(オンライン)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 新型コロナウイルス流行期における日本の災害言語サービス
3. 学会等名 Belt and Road International Forum on Language and Culture (「一帯一路」語言文化研究国際論壇)(オンライン)(招待講演)(国際 学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 言語景観による地域の活性化 大分県を事例として (Revitalization of Community by Linguistic landscape- A Case study in Oita Prefecture)
3. 学会等名 第五回アジア未来会議(AFC5)。渥美国際交流財団関口グローバル(SGRA)研究会による主催。(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 言語政策と言語経済 言語景観(モリンドワダグル族自治旗)を事例として」
3. 学会等名 「第四回国家言語戦略高級フォーラム」 国際シンポジウム、中国言語戦略研究センター/南京大学文学院主催(中国教育部言語文字情報 管理司による指導)。(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 日本における社会言語学とモンゴル学研究について
3. 学会等名 中国・大連民族大学文法学院(民族史研究所)にて。(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 ダグル語チチハル方言の特徴について
3. 学会等名 国際都市言語学会(第17回年次大会、ULS17)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 モリンダワダグル語のバイリンガル動詞について 文献データを中心に
3. 学会等名 第七回アジア未来会議(AFC7)。渥美国際交流財団関口グローバル(SGRA)研究会が主催予定、タイにて。(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 モンゴル国の言語政策—伝統的なウイグル式モンゴル文字の復興を中心に
3. 学会等名 国際都市言語学会 第21回年次大会、モンゴル国国立大学/国際都市言語学会/中国言語戦略研究センターによる共催予定、ウランバートルにて(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Bao Lianqun, Julie Lefort
2. 発表標題 Fabricating New Languages Along the Silk Road: A Case Study of Bilingual Verbs in Dongxiang With Comparative perspective with Dorbed Mongolian
3. 学会等名 CUHK 60th Anniversary Event 'International Symposium on Silk Road Linguistics' (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 包聯群
2. 発表標題 保安(バオアン)語のバイリンガル動詞について
3. 学会等名 「第十二回 日仏国際ワークショップ 中国における言語政策と言語継承 アルタイ諸語の言語接触と言語変異を中心に」(The 12th Japan-France Workshop) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Bao Lianqun
2. 発表標題 Language contact and Language change - A case of DMCL (Bilingual verbs)
3. 学会等名 Workshop of "Language Contact in Northern China: Areal, Historical and Synchronic perspectives" (LCNC) in Paris (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 包聯群	4. 発行年 2023年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 323
3. 書名 『現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China)』(第七巻)	

1. 著者名 包聯群編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 223
3. 書名 『現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China)』 (第六巻)	

1. 著者名 包聯群編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 274
3. 書名 『現代中国における言語政策と言語継承 (Language Policy and Language Inheritance in Modern China)』 (第五巻)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	呉人 徳司 (KUREBITO Tokusu) (40302898)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 第十一回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 言語景観の役割 (The 11th Japan-China Workshop Language Policy and Language Inheritance in Modern China, ハイブリッド)	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 第十回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 多言語の視点から (The 10th Japan-China Workshop Language Policy and Language Inheritance in Modern China, ハイブリッド)	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 第八回 日中国際ワークショップ 現代中国における言語政策と言語継承 (The 8th Japan-China Workshop Language Policy and Language Inheritance in Modern China: Focusing on Minority Languages)	開催年 2020年～2020年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------